

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	教授 安藤淳一
---------	--------------	-------	---------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

建築専門領域のうち、計画系、意匠・設計系、防災系の科目を担当。計画系科目は建築計画・都市計画、設計系科目は基本製図・建築表現、防災系はサブメジャー専用プログラムの防災・治水プログラムなどである。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
基本製図	建築学科	必修	1年	63
建築表現Ⅰ		選択	1年	56
北国の建築と住まい		選択	1年	59
建築計画Ⅰ		必修	2年	51
建築表現Ⅲ		選択	2年	29
都市計画		必修	3年	46
インテリアデザインⅡ		選択	3年	9
建築表現Ⅴ		選択	3年	6
建築の職能と倫理		選択	3.4年	6
建築表現Ⅱ		選択	1年	
建築計画Ⅱ		必修	2年	
建築表現Ⅳ		選択	2年	
ユニバーサルデザイン演習		選択	2年	
防災・治水プログラム		選択	3年	
ボールパークプログラム		選択	3年	
建築研究Ⅰ・Ⅱ		必修	3年	
建築研究Ⅲ・Ⅳ		必修	4年	
卒業研究		必修	4年	

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要なとされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。【建築学科】
個人の教育理念・目標	建築という専門の学問領域を学ぶことから、建築の知識と技術を共生させられる教育をおこなう。 大学教育全般を通じ建築技術者としての倫理観と職能を養い、それをもって地域の人びとや地域社会に貢献できる人材の育成を目標とする。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授 業	<p>講義系科目では、専門領域の根幹となる知識の理解と修得のための内容を画像データをもとに架設するとともに、関係する専門領域の最新の情報を適宜伝達することを心掛けおこなっている。</p> <p>実技系科目（設計系科目）では、建築図面の基礎的な理解と図面作成能力を身に付けさせるため、資料、黒板記載情報及びその画像情報を用いた丁寧な説明と作業時における個別指導（SA2 名含め）をおこなっている。</p>
アクティブラーニングについての取組	<p>技術者倫理に関わる科目では、テーマごとに学生がファシリテーターとなり、授業資料の準備、授業の進行、授業で取り上げる事象に関して学生間の議論の取りまとめおよび導き出した結果に対する相互評価を主体的におこなっている。</p>
ICT の教育への活用	<p>知識の理解と修得を主体とする講義系科目において、専門内容のより正確な理解のため、関係キーワードなどを授業内においてスマートフォンを用いて検索、その内容の発表、公表等をおこなっている。</p> <p>コロナ禍での実技科目においては、映像機器によるオンラインのライブ映像を用いて、図面作成の解説と個々の作図状況の確認と指導をおこなった。</p>
その他の創意工夫	<p>講義系科目は、教科書以外にも授業で使用する画像データとリンクする授業資料を作成し、解説をおこなっている。授業の重要項目をメモさせる演習 1 は毎回授業終了後に提出させ、当該授業に関連する設問に答える演習 2 を事後学習として課し、次回授業開始時に提出させている。</p> <p>実技科目（基本製図）は、SA（建築学科 4 年 2 名）を配し、個々の学生の授業内容の理解と正確な作図作業の確認と指導をおこなっている。重要事項は毎回黒板に明記するとともに画像データを TEAMS 内にもアップロードし振り返り作業に利用できるようにしている。</p>

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	<p>アクティブラーニングをおこなっている科目、実技系科目においては、おおむね授業内容の理解、技術習得ができたとの回答を得ている。講義系科目のうち、情報量の過多により満足する理解ができなかったとの回答も見られた。</p>
学生の学修成果	<p>実技系科目は、当該学年の学生の能力に多少の差が見られ、理解力と作図状況により、課題の進行速度を調整している。この対応により、最低限の目標とする作図能力のレベルを担保することができるが、学修成果として身に付ける能力の差をできる限り小さくするための工夫がさらに必要である。</p> <p>情報過多による理解度の低下がうかがえる内容については、説明内容や情報の精査をおこない、理解を求める主体となる内容を的確に示せるものに改善する必要がある。</p>

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>講義系科目においては、知識の理解においてもアクティブラーニングによる理解が必要であり、その方法を取り入れる工夫が必要と考え、授業改善に取り組む。</p> <p>実技系科目は、個々の理解力と作図能力を早期に確認し、必要とする能力の修得に向けカルテのような個別資料を基にした適切な指導が必要であると考え取り組む。</p>

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	教授 伊藤裕康
---------	--------------	-------	---------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

私は、物理や環境工学関連の建築専門教育としての建築環境工学や物理学の授業の他、数理・データサイエンス関連の教養教育としての統計学の授業を担当しています。各学科の学生が、それぞれの専門科目で学習する内容を身につけるための論理的思考の素養を育めるようにすることが私の教育の責任と考えています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
建築環境Ⅱ	建築学科	選択	3	
応用物理	建築学科	選択	3	4
統計学入門	全学科	選択	2	61
基礎統計演習	デザイン学科・建築学科	選択	2	
CAD 演習Ⅰ	建築学科	選択	1	
CAD 演習Ⅲ	建築学科	選択	3	7
CAD 演習Ⅳ	建築学科	選択	2	
アクションプログラムⅠ	建築学科	選択	1	24
アクションプログラムⅡ	建築学科	選択	1	
情報基礎演習Ⅰ	建築学科	必修	1	62
情報基礎演習Ⅱ	建築学科	必修	1	62
スタートアップ演習	建築学科	必修	1	62
プレゼンテーションツール	建築学科	選択	1	38
建築研究Ⅰ	建築学科	必修	3	4
建築研究Ⅱ	建築学科	必修	3	4
建築研究Ⅲ	建築学科	必修	4	4
建築研究Ⅳ	建築学科	必修	4	4
卒業研究	建築学科	必修	4	4

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要なとされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	国際化、産業構造の変化、少子高齢化、そして価値観の多様化が急速に進み、先行きの予測が困難な複雑で変化の激しい現代社会において、共生社会の実現に資する幅広い豊かな教養と建築学科の素養に裏づけられた柔軟な思考、総合的で的確な判断とそれにもとづく迅速な行動ができる論理的な分析力に裏づけられた実務処理能力のある人材を養成する。特に、人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。
個人の教育理念・目標	現代の情報化社会においては、たくさんの数字を利用し、影響を受けながら日々暮らしています。これらの数字の意味を理解せずに、ただ操作するのではなく、実用上有用な情報を引き出して分析し、実務に役立てることが重要となります。そのため、教養となる数理的知識・技能を身につけるとともに、数理的教養と建築・都市環境に関わる専門知識を組み合わせ、実用性を追求できる論理的思考力を学生たちに見つけてもらえるように教育していくことを教育理念としています。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授 業	授業の中で、例題を通して条件から答えを導出するための論理的な考え方を説明した後、導出方法を示します。また必要な数理的知識や技能を確認します。演習問題では、学生自身に考えてもらい、導出してもらいます。その過程で生じた疑問は、自ら調べる、隣の人と相談する、グループで話し合う、教員に質問する等の方法により段階を踏んで進めます。教員は、机間巡視を行うことで、学生たちがどの段階で迷っているのかを把握し、学生全体に発問を投げかけながら議論の段階を進めていきます。理解できずに考えることを諦めてしまう学生には、できるだけ周りとのコミュニケーションを取らせて、お互いに教え合うことを重視しています。
アクティブラーニングについての取組	演習課題や学生同士の議論など、学習者参加型の活動を行う時間を多く取っています。
ICTの教育への活用	学習管理システムを通じた授業資料の配布により、学生が授業時間外も自宅で自習できるようにしています。また、授業管理システムを利用して授業後にふりかえりアンケートを実施し、質問への対応を行っています。
その他の創意工夫	授業中に行う演習の時間には、机間巡視を行い、対面での質問に回答したり、課題への理解度を測っています。また、授業時間外もメールやチャットで質問に対応しています。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	授業内容の理解度にばらつきがあり、全体の8割以上の学生が授業スピードは適切であり理解できたと回答している一方で、授業スピードを速いと感じていた学生もいたため、それが理解度のばらつきという結果になったと考えられます。
学生の学修成果	授業内容への興味や理解度の高さは、各担当科目における数理的知識や技能を修得したことを示しており、一定の成果は得られていると自己分析します。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

理解できなかった内容を放置しないために、学生がつまづいた箇所をアンケートを通して把握して、ICT教材作りを行っていきます。

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	教授 佐藤善太郎
---------	--------------	-------	----------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

建築法規関係の科目を中心とした科目群を担当することにより、資格関係の科目は勿論、法律に裏打ちされた建築製図の作図法やプレゼンテーションの表現方法についての指導を行っている。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
建築法規Ⅰ	建築学科	必修	2	50
建築法規Ⅱ	建築学科	必修	2	50
建築法規Ⅲ	建築学科	選択	3	45
建築法規Ⅳ	建築学科	選択	3	45
CAD 演習Ⅲ	建築学科	選択	3	10
二級建築士演習Ⅰ	建築学科	選択	4	15
二級建築士演習Ⅱ	建築学科	選択	4	15
二級建築士演習Ⅲ	建築学科	選択	4	15
二級建築士演習Ⅳ	建築学科	選択	4	15
建築設計演習Ⅰ	建築学科	必修	2	45
建築設計演習Ⅴ	建築学科	選択	4	15
建築設計演習Ⅵ	建築学科	選択	4	15
プレゼンテーションツール	建築学科	選択	1	60
スタートアップ演習	建築学科	必修	1	60

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力をもち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。 【建築学科】
個人の教育理念・目標	建築技術者として、あるいは建築の教職に携わる者の人材育成としても建築関係法令の啓蒙は建築教育機関としては必須の事柄であり、不可欠の常識である。いわゆる建築法規はどの大学でも敬遠されがちな科目ではあるが、英語圏で暮らすのに英語のスキルが必要なように、建築業界に身を置くためには、建築法律知識の習得は不可避である。小職は「資格が無ければ飯を喰えない」と言われる建設業界の中で、関連法規に係る専門知識を有し、そして資格も取得して、社会に貢献する人材を育成したい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授 業	基礎学力をつけさせるために、原則1クォータ11回以上の出席を求め、それ以上の欠席は次年度の再履修を促す。そして授業中には法令集を教科書とし、建築法規の知識を習得するために、毎回、法令集を①「声を出して読み」必要な個所に②「アンダーラインを引き」、解説によって③「条文を理解」して過去④「問題を解く」の繰り返しにより、学習しつづける習慣を身につけて欲しい。「読む」のは法令独特の云い回しを確認するため、「アンダーライン」は後日検索の為の記憶の目印、「理解」により条文を解釈し、「解く」により知識を例題に落とし込む。特に例題は単元ごとに、各自時間を与えて解かせて、その後解答の解説を選択肢の一文、一文時間をかけて行う。また、資格試験の設計製図は、実際は建築の法律の試験であるということも念頭に入れて指導を行っている。
アクティブラーニングについての取組	授業中、「理解」と「解く」の時間には私語を許し、学生同士の議論に取り組む時間を設けており、これによって学生の理解が深まることもあり、教員の負担も軽減される。
ICTの教育への活用	成績管理は、学内の学務システムポータルサイトを使って成績管理やシラバス、授業評価アンケートの収集などにより、即時の情報伝達が可能になった。
その他の創意工夫	なるべく図解の多いプリントを準備し、視覚的にも記憶に残ることを心掛けた。また授業中の不明な点や質問、疑問については必ず授業の後半に回答する時間を設け、急病による授業欠席も含めてMicrosoft Teamsのチャット機能等を使ってやり取りをした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	各担当科目ともいずれの項目も「適切」の割合が80%以上と一定の評価を与えられた。
学生の学修成果	学生からの意見で「細かい解説を交えながら法規について解説し、練習問題に取り組むことで理解を深めることが出来た。」等の記述のとおり授業全般には一定の成果は得られたと思う。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>コロナ禍では、遠隔授業のための教材をつくっていたが、今年度はそこまで手が廻っていない。今後はもっとICTを活用した教材づくりを行っていく。</p>
--

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

令和5(2023)年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	教授 長森 正
---------	--------------	-------	---------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか？ 担当科目は？)

①教育の責任

私は美術学部建築学科の専門科目の中で、構造系の授業を担当しています。基礎的な建築力学から専門的な構造系授業へと体系的に理解できるように実務経験をもとに実施しています。建築学の力学的・構造的な素養を育めるようにすることが私の教育の責任と考えています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
図学 (建築図学を含む)	建築学科	選択	1	62
スタートアップ演習	建築学科	必修	1	62
建築材料実験	建築学科	選択	2	51
建築構造力学Ⅰ	建築学科	必修	2	51
建築構造力学Ⅱ	建築学科	必修	2	51
基礎ゼミナールⅡA	全学科	必修	2	18
基礎ゼミナールⅡB	全学科	必修	2	18
アクションプログラムⅢ	建築学科	選択	2	27
アクションプログラムⅣ	建築学科	選択	2	
鉄筋コンクリート構造	建築学科	必修	3	49
鋼構造	建築学科	選択	3	
測量学	建築学科	選択	3	
建築研究Ⅰ	建築学科	必修	3	1
建築研究Ⅱ	建築学科	必修	3	1
建築研究Ⅲ	建築学科	必修	4	
建築研究Ⅳ	建築学科	必修	4	
卒業研究	建築学科	必修	4	1

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか？ 育てたい学生像など？)

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。

個人の教育理念・目標	<p>学生が将来の建築家や建築関連の専門家として育っていくためのスキルや知識を育むことを理念としています。そのなかで建築構造系の授業を担当している立場として、実務経験をもとに建築の基本的な技術・材料・施工法などの知識を学生に提供し、実際のプロジェクトの見学などを通じて、卒業後の実践的なスキルなどを身につけてもらえるような構造系の授業を実施していきたいと思えます。</p>
------------	--

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方、方法は?)

授業	<p>建築構造物に作用している力学的諸現象がイメージできるように、模型や動画、簡単な実験等の視覚的表現を用いての授業を心掛けています。学生が受動的学習に留まらないように、演習時間を設けて自分で考えて解答を導きだすようにしています。学生自身や他者が未理解部分がある場合は、お互いに教えあう時間も確保して、理解を深めていくようにしています。建築のプロジェクトは多くの関係者とのコラボレーションが必要です。学生にはチームでの作業やプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション能力の向上をはかるようにしています。</p>
アクティブラーニングについての取組	<p>授業中に演習課題を通して、未理解の箇所について学生同士の議論から解答を導くなどの能動的活動に取り組む時間をとっています。</p>
ICTの教育への活用	<p>マイクロソフトの Teams ソフトを利用して、授業資料の配布などを行い、学生が授業時間外も自学自習ができるようにしています。また不明点、未理解部分などは、チャット機能を利用して対応するようにしています。</p>
その他の創意工夫	<p>毎回、演習課題を配布して理解度を上げるようにしています。また次回の授業時に課題解答の解説を実施し、未理解者への対応をしています。授業時間外ではメール、チャットなどで対応しています。</p>

4. 教育の成果 (その方法を行った結果、どうだったか?)

授業改善アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「建築材料実験」 いずれの項目でも 4.0 以上であり、平均で 4.5 の高評価を有しており、自由記述からは講義内容を実験から理解できたことや、グループ分けにより、コミュニケーション能力が身についたとのコメントを受けています。 ・「図学 (建築図学を含む)」 理解できた以上が 82%、満足できた以上が 90% 以上あり、自由記述からは Teams を利用した図形解答添付が良い、図形や建物を立体的に理解できたなどのコメントを受けています。 ・「建築構造力学Ⅰ」 理解できた以上が 96%、満足できた以上が 98% 以上あり、自由記述からは配布プリントがありわかりやすい、わかるまで説明してくれたので理解できたなどのコメントを受けています。 ・「鉄筋コンクリート構造」 理解できた以上が 85%、その他の 9 項目はいずれも 90% 以上の評価を受けています。 ・「アクションプログラムⅢ」 理解できた以上、満足できた以上がいずれも 100% であり、とても充実した内容であったとのコメントを受けています。 <p>「建築構造力学Ⅱ」・「鋼構造」・「測量学」は、第 3Q 集計終了後、追記します。「アクションプログラムⅣ」は、第 4Q 集計終了後、追記します。</p>
--------------	--

学生の学修成果	全般的に作図能力、コミュニケーション能力、基礎数理能力が身についたとのコメントが上がっており、建築の構造系基礎学力に関する一定の成果は得られていると自己分析します。
---------	--

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

建築構造系の科目について、さらに学生が興味を持てる最新の建築技術題材を把握し、授業に反映させていきます。また建築士や建築施工管理技士などの資格試験に関する情報や構造系の資格試験問題などを積極的に提供し、資格取得のサポートをしていきます。

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

レポート課題、試験問題、教材

- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE01 「図学（建築図学を含む）」
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE02 「建築材料実験」
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE03 「建築構造力学Ⅰ」
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE04 「鉄筋コンクリート構造」
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE05 「建築構造力学Ⅱ」第3Q終了後に追記
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE06 「鋼構造」第3Q終了後に追記
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE07 「測量学」第3Q終了後に追記
- ・ R05 (2023) 建築学科/長森正 TPE08 「アクションプログラムⅣ」第4Q終了後に追記

更新日：令和5年9月4日

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	特任教授 佐々木哲之
---------	--------------	-------	------------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

建築の建築設計製図、建築環境 I などの基礎的知識とそれを応用した建築積算、建築研究、卒業研究などの専門知識を教えることである。また福祉環境計画論を通じて近年においては必要不可欠なバリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方を身に付けさせることである。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
建築設計製図	建築学科・全専攻	必修	1	62
建築環境 I	建築学科・全専攻	必修	3	52
福祉環境計画論	建築学科・全専攻	必修	2	53
建築積算	建築学科・全専攻	選択	4	20
建築研究 I. II. III. IV	建築学科・全専攻	必修	3・4	14
卒業研究	建築学科・全専攻	必修	4	6

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。
個人の教育理念・目標	教育の理念として、基礎的専門知識と技術の修得を重視している。建築に関する専門知識は年々高度化多様化している。しかし、これらを 4 年間で身に付けさせることは難しい。そのためには基礎的専門知識と技術をしっかりと修得させることが必要である。このことを基本に実務的にも物事を理解し、分析しながら建築計画設計に反映でき、また、自分で学んだ知識を応用する力を持つ人材を輩出することを目標としている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授業	<p>授業の開始 15 分を使い、前回授業の復習のための簡単な考査を行っている。実際の建築工事や建築物の画像などビジュアル的に興味を持たせることに配慮している。また、講義の聞くだけを避けるため、科目により以下の 2 点の方法を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な用語、意味などを記入する資料を配布し、テキストとスライドによりそれらの欄を埋めさせ資料を完成させるようにしている。 ・講義ノートを書くようにさせる。そして、講義ノートを提出させチェックし返却している。
アクティブラーニングについての取組	<p>建築積算の授業では、演習課題の私が解説をする前に、その課題の解き方、計算方法のために学生間の話し合い時間を設け、その結果を発表させている。</p>
ICT の教育への活用	<p>建築設計製図では Teams を利用し、学生の図面をアプリ「科目のチーム」に画像を送らせ、その図面をチェックし、訂正させるという作業を行っている。また、ほかの科目でも「授業科目のチーム」を介して課題の受け渡しを行っている。</p>
その他の創意工夫	<p>全ての担当科目において「授業科目のチーム」を作成し、学生たちと建築画像や資料の共有、さらに課題の提出、質問の回答を行っている。</p>

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	<p>各科目とも各項目で「とても適切、充分適切」が 65%~70%と高評価である。コメント欄で「この科目が好きになった」を受けている。</p>
学生の学修成果	<p>建築設計製図では手書き演習を 8 課題実施し提出させている。1 課題目と 5 課題目では少しの上達であるが、7, 8 課題目になると明らかな技術の上達が見られる。また、授業回数後半になると学生間で教えあい、話し合う姿が見え始める。</p>

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>科目の重要性、社会に出てどのように役立つかを具体的に伝え、より興味を持つように努めたい。</p>

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	准教授 赤木良子
---------	--------------	-------	----------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

私は、デザイン・建築関連の基礎教育として、平面構成や図学、そしてデザインの基礎的な理論のためのデザイン概論を担当しています。各学科の学生が、それぞれの分野で必須となる基礎的な知識や表現力、技術力を身につけることができるよう努めていくのが私の責任と考えています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
平面構成Ⅰ	デザイン学科	必修	1	58
平面構成Ⅱ	デザイン学科	必修	1	
デザイン概論Ⅰ	デザイン学科	必修	2	56
デザイン概論	建築学科	選択	2	18
デザイン概論Ⅱ	デザイン学科	必修	2	58
図学Ⅰ	デザイン学科	選択	1	19
図学Ⅱ	デザイン学科	選択	1	

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要なとされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。 【建築学科】
個人の教育理念・目標	美術学部に属する建築学科ということで、知識や教養の修得と共に、個々の学生の感性や感覚の練磨に努め、感受性豊かで想像力・創造力・表現力のある人間形成を目指しながらも、建築表現・業務を遂行できる基本的な技術力の修得にも努める。そのためにこの学生の潜在能力をできるだけ引き出せるような教育方法の模索も常に心がける。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授業	実習系の科目では、主に手作業による作品制作を行っていますが、まずは道具の使い方に慣れ、丁寧に繰り返し作業することで基礎的な技術の向上を図っています。個人により作品制作のスピードも違うため、提出期限は余裕を持って設定し、急ぐあまり雑な仕上がりにならないように計らっています。また、上記実習系に加えて、デザインには理論的な知識は実務上も必須となります。そのため講義ではなるべく多くの視覚資料を用いてわかりやすい内容を心がけています。毎回授業に沿った穴埋め式のワークシートを用いて、まとめができるように資料を作成・配布しています。
アクティブラーニングについての取組	実習系の科目は自分で作品を制作するためアクティブラーニングそのものと言えると思います。講義系では聞くだけの授業にならないように、ワークシートの記入、グループワーク（グループでの話し合い）、調査学習、パワーポイントによる個人発表などを取り入れて、なるべくアクティブになるように工夫しています。
ICTの教育への活用	学習管理システムを用いた授業資料の配布により、学生が授業時間外も自習できるよう取り計らっています。また、個々の作品をシステム上のパブリックスペースに保存することで、全員が他の学生の作品をいつでも見たり、参考にしたりできるようにしています。
その他の創意工夫	システムを用いて学生との質問・連絡等は常時行なっています。また、学習管理システムにより、提出をデータでできるようにしたり、多様な方法でできるだけ受け入れるようにしています。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	全体的にポジティブな反応が多かったと思います。改善点については、非常に具体的な指摘があったので、取り入れようと思います。ワークシートやグループ学習、調査学習を取り入れたことで、学生の理解度は少し上がったようです。また、楽しめたようでした。前年度の途中まで授業中の資料配布を行っておらずアンケートにより配布の希望があったため配布を開始しました。その中で、配布することのできない資格資料（美術作品の画像など）についてはQRコードやURLでの配布にしましたが、特に違和感なく進められました。
学生の学修成果	理論（講義）に関しては2年生にとっては難しいところもあったと思いますが、要点とテーマをなるべく絞って、グループワークにしたり、書き込んだり、調査し発表したことにより、理解度が上がったと感じています。実習系科目では、具体的な課題ではよくできていましたが、抽象的な課題は難しかったようです。それでも、抽象的な課題や、苦手意識のある道具にも何度も触れることで、学生にとっては良い機会となったようです。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

実習系科目では、難しいという声が多かった抽象的な課題について進め方をもう少し工夫した方が良いと思っています。例えばキャラクターや実際の何かを描く、といった具体的な課題については、日常的に、視覚的に触れていることが多いため、理解度・完成度も上がっていました。これに対し、抽象的なテーマは難しいとはいえ、基礎的な部分になるため、必須となりますが、進め方を研究しようと思います。講義については、今のやり方で、なるべく楽しめるような講義形式をより多く取り入れながら、進めていきたいと考えています。

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketokako/>

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	准教授 小 山 尋 明
---------	--------------	-------	-------------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

私は、健康とスポーツ関連の教養教育として、スポーツ総合及び健康科学に関する授業を担当しています。スポーツや健康に関する技術や知識の習得と共に、スポーツと健康を育めるようにすることが私の教育の責任と考えています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
スポーツ総合	建築学科	必修	1	62
基礎ゼミナールⅠA	全学科	必修	1	13
基礎ゼミナールⅠB	全学科	必修	1	13
基礎ゼミナールⅡA	全学科	必修	2	13
基礎ゼミナールⅡB	全学科	必修	2	13
健康科学	建築学科・デザイン学科	必修	1	116

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。 【建築学科】
個人の教育理念・目標	生涯教育の一環としてのスポーツや健康について基礎的な科学的知識や情報を学んでもらうだけではなく、関心の高い様々な健康問題に一層深い関心を持って生涯の健康づくりに育むことを理念としています。

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方、方法は?)

授 業	実技・座学・ゼミなど全てにおいて、コミュニケーションを大切に「自ら考え自ら行動する」を基本とし、コミュニケーション脳力は元より思考力・判断力・実践力などの能力を鍛え、どの社会においても「ルール・マナー」
-----	---

	があり、それらに適応し貢献できる、人としてバランスのある能力を備えた人材を育てることを目指しています。
アクティブラーニングについての取組	授業中に、ブレインストーミング法などを用い積極的な議論ができるようにしています。
ICT の教育への活用	チャット機能を使い、相談や質問等に対応しています。
その他の創意工夫	単元ごとにプリント及び確認テストを行い、理解度などを確認しています。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	学生の自由記述からは、日常生活において、身に付きの実感があるとのコメントを受けています。
学生の学修成果	日常生活に大変役立ち意識と行動が変わったなど一定の成果は得られていると思います。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>短期目標としては、スポーツや健康について様々な情報を提供し関心を高めるよう働きかけます。</p> <p>長期目標としては、生涯の健康づくりを学ぶための教材及び教科書作りを行っていきます。</p>
--

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketokako/>

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	准教授 横山哲也
---------	--------------	-------	----------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

私は、数理・キャリア及び教職関連の教養教育として、数学やキャリア支援演習の授業を担当しています。各学科の学生が、それぞれの専門科目で学習する内容を身につけるための基盤としての数理的素養を育めるようにすることが私の教育の責任と考えています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
数学入門	全学科	選択	1	106
建築士のための基礎数学	建築学科	選択	1	51
応用数学	建築学科	選択	3	
キャリア支援演習Ⅰ	建築学科	必修	1	62
キャリア支援演習Ⅱ	建築学科	必修	1	62
キャリア支援演習Ⅲ	全学科	選択	3	31
職業指導	建築学科	選択	3	
工業科教育法Ⅰ	建築学科	自由	3	0
工業科教育法Ⅱ	建築学科	自由	3	
基礎ゼミナールⅠA・B	全学科	必修	1	20
基礎ゼミナールⅡA・B	全学科	必修	2	3
スタートアップ演習	建築学科	必修	1	62

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要なとされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力をもち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。 【建築学科】
個人の教育理念・目標	工業（建築）分野において活躍できる人材の教養を育成することを目指し、そのために、学生の理解度や不明箇所の把握に努めたり、演習課題を多く取り入れる。

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方、方法は?)

授業	授業の中では、豊かな創造力や工業（建築）分野において活躍できる人材の教養を育成することを目指している。そのために、学生の理解度や不明箇所の把握に努めたり、演習課題を多く取り入れている。
アクティブラーニングについての	授業中に、演習課題などの能動的活動に取り組む時間を多く取っています。

取組	
ICT の教育への活用	Teamsを使用した遠隔授業を行えるように準備しています。
その他の創意工夫	毎回、学習したことや感想などを提出してもらって理解度を測っています。授業中に取り演習の時間に、質問への対応を行っています。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	各担当科目のいずれの項目でも適切以上と一定の評価を有しており、学生の自由記述からは身に付きの実感があるとコメントを受けています。
学生の学修成果	わからない箇所が理解できたと数点コメントが上がっており、一定の成果は得られていると自己分析します。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>学生が講義の内容をさらに理解できるように、数学を学ぶ際の課題に出席カードの裏の意見を反映させていきます。</p>

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketokako/>

試験問題

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	特任准教授 君興治
---------	--------------	-------	-----------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

建築実務の授業を指導する教員として設計演習と設備の授業を担当しています。就活や卒業後の社会で働くにあたり、在学中に会得が必要とされる専門知識、経験、心得やマナーなどを身に着くよう導き、社会で活躍できる人材に教育することを教育の責任と考えています。同時に専門職の魅力や楽しさ、やりがいを伝えることも責務としています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
建築設計演習Ⅲ	建築学科	選択	3	42
建築設備Ⅰ	建築学科	必修	2	51
建築設備Ⅱ	建築学科	選択	3	41
アクションプログラムⅤ	建築学科	選択	3	34
建築研究Ⅰ	建築学科	必修	3	3
建築研究Ⅲ	建築学科	必修	4	3

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力をもち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。 【建築学科】
個人の教育理念・目標	どの分野においても目指すものに興味を持ち、それに向かって計画的に行動することを教育の理念と目標と考えています。 押し付けにならず、学生自らがやりたいと思えるように導くことが大切だと考えます。 待遇だけで仕事や会社を選ぶのではなく、専門職の中でも、仕事のやりがいや達成感が感じられる職種を見つけることができるよう、建築の中でも様々な職種がある中から可能な限り、それぞれの仕事の魅力を学生に伝えるようにしています。企画、デザイン、現場、設計、など建物や街が完成するまでの全てのプロセスを伝えるように教育しています。

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方、方法は?)

授 業	演習授業である、設計や設備の計画では自分で考えたことをきちんと形(単面など)にして表現することができるよう指導しています。 最近の学生は、インターネットで似たものを探したり、まわりの学生のもの
-----	---

	<p>を真似して描いてしまうことが多い中、自身が考えて作図するように授業内で提出させる方法にしています。</p> <p>下手さや間違いを問題視するのではなく、何度も作図していく中で理解して覚えることができるように指導しています。</p> <p>学生がこれまで持っていた考えを、授業で学んだ知識・学生同士で話し合うことで、違いや別の考えを受け入れたり、すり合わせながら、良い方法を模索するために「自分で考える」「学生同士の話し合い」「言葉だけでなく、作図ですぐに形にする」を繰り返す授業を行っています。</p>
アクティブラーニングについての取組	<p>授業中の、学生同士の意見交換、教員との1対1の会話などを多くとるようにしています。</p>
ICTの教育への活用	<p>授業開始前に、teamsなどで教材となるデータの添付を行い、授業中はスクリーンにWEBカメラを使用して、教科書などの映すだけでなく、教員がその場で直筆で作図する様子を見せることも交互にスライド映写し、他にも実際に仕事で使われる実施図面や現場写真を織り込むことで、学生の理解度を深めるように工夫しています。</p>
その他の創意工夫	<p>学生の作成した課題を次の授業までに添削・修正し、授業では、それを返却時に指導・講評しています。全体としては、授業の最初に間違いが多かった箇所を再度説明を行うようにし、学生も評価を共有して学習できるようにしています。</p> <p>設計演習では、書面で講評を配布し、よい点、改善すべき点、頑張った点などを具体的に添削し、学生個人ごとに指導しています。</p> <p>授業時間外でも teams での質問や、作品の送付に対して、添削指導して返信をしています。</p> <p>設備演習では、設備計画をして作図をするだけでなく、実際に配管の組立を行い、実際の設備工事のイメージや大変さを体験して学ぶようにしています。</p>

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	<p>各担当科目のいずれの項目でも一定の評価を有しており、学生からの意見は設備Ⅰでは、「説明が分かりやすくて良かった。」「毎回演習があったので理解が深まった。」「設備は違うが、同じ建築を使うことで、実際の構造を理解できた。」「課題も生徒自身にやらせるだけでなく、最初に手本を見せることで、授業にもついていけた。」という内容でした。</p>
学生の学修成果	<p>建築の専門分野の中でも、設備という科目はさらに専門性が高く、他の演習授業と比較すると、就職の候補としては人気がない中で、就職の道として考える学生が若干増えてきています。それに対して、設備の楽しさややりがい、仕事の内容を伝えられているとし、成果があると考えます。</p>

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

<p>基本的な知識や技術だけでなく、建築の業界ならではの心得やマナーを含む常識、社会でのあり方を、もっと具体的に学生に伝えることができるよう、写真や動画を見せたり、経験していることを今の建築業として、伝えたいと考えています。授業だけではイメージできない内容を実際の実務と比較できるように ICT 教材作りを行っていきたいと考えています。</p>
--

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketokako/>

以上

令和 5 (2023) 年度
星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	専任講師 小笠原 健
---------	--------------	-------	------------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか? 担当科目は?)

①教育の責任

主に国家資格系科目を担当し、建築分野に不可欠な国家資格である一級・二級建築士ほか、大学在学位中に受験可能である一級・二級建築施工管理技士、宅地建物取引士などの国家資格の取得に直結する実践型講義を行っている。また、建設業界への就職に対する意識向上と建設業界の現状とその知識の修得につながる講座も担当しており、これにより、大学在学中に何をやるべきかなどを考えさせ、日常の勉学意欲の向上となるように指導している。よって、卒業後の就職に在学中から備えることで、各学生の人生向上の助力となるとともに建築技術者として日本社会に貢献できるような人材教育に心がけている。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
建築構造力学Ⅲ	建築学科	選択	3	29
建築材料	建築学科	必修	1	64
建築施工	建築学科	必修	3	46
建築生産	建築学科	選択	3	30
施工管理技士演習Ⅰ	建築学科	選択	3	13
施工管理技士演習Ⅱ	建築学科	選択	4	13
アクティブプログラムⅤ	建築学科	選択	3	22
宅地建物取引士試験対策プログラム	全学科	選択	全学年	43
建築研究Ⅰ	建築学科	必修	3	4
建築研究Ⅱ	建築学科	必修	3	4
建築研究Ⅲ	建築学科	必修	4	4
建築研究Ⅳ	建築学科	必修	4	4
卒業研究	建築学科	必修	4	4

2. 教育の理念 (どのような考えに基づいて行っているのか? 育てたい学生像など?)

建学の精神	社会に必要なとされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	国際化、産業構造の変化、少子高齢化、そして価値観の多様化が急速に進み、先行きの予測が困難な複雑で変化の激しい現代社会において、共生社会の実現に資する幅広い豊かな教養と建築学科の素養に裏づけられた柔軟な思考、総合的で的確な判断とそれにもとづく迅速な行動ができる論理的な分析力に裏づけられた実務処理能力のある人材を養成する。
個人の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力をもち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授業	<p>建築学科という特性上、卒業後に建築業界の最高峰の国家である一級建築士の受験資格を得られる指定校となっていることから、それに対する多くの講座が用意されており、それに応えるためにも担当する講座では、一定レベルの学力を修得させることに努める責任があるものと認識している。</p> <p>よって、各担当講座では、その国家資格の受験に耐えうる実践型授業に取り組んでおり、担当分野の講義を行うに際し、教科書だけでなく、過去問題とその解説なども取り入れつつ、受講者の深い理解と実際の社会で行われている業務などを照会しながらの実践型授業を実施している。特に担当する国家資格講座については、必ず、合格実績が発表されるため、講義の結果責任を問われることを深く認識し、緊張感をもった責任感のある教育を実践している。そのため、一方的な講義ではなく、講義の理解度を図るための小テストなどを各分野別実施するなどの学生の修得度を考慮しながらの丁寧な授業に努めている。</p>
アクティブラーニングについての取組	<p>建築研究や卒業研究などのゼミ講座では、学生ごとにテーマを各自考えさせたうえで、プレゼンテーションを個別に行わせることで、自己表現ならびに提案能力の実力向上を実践しており、その提案内容を具現化すべく、実際に建築設計を実施させ、個別に指導している。</p>
ICTの教育への活用	<p>DXやITなどの社会情勢に対応すべく、いち早くAi技術を活用した最新3D設計システムBIMを研究室に導入し、最新技術を学生へ供与している。</p> <p>なお、研究室に導入した日本製BIM「gloobe」は、日本の大学で最初に導入し、その供給企業と連携し、最新研究を実施している。</p>
その他の創意工夫	<p>各業界の企業へのアプローチを積極的に行い、インターンシップや企業担当者を講義へお招きしての実務講義などで、企業が求めている人材を在学中から認識してもらい、大学生活の学業などの充実と各学生の学習意欲の向上を図っている。また、最新Ai3D設計システムBIMの活用とともにVR設備機器を使用した3D体験を実施することで、空間認識能力の向上を図っている。</p>

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	<p>いずれの科目も高い満足度を得られた高評価のアンケート結果となっている。この大学で実施される授業改善アンケートのほか、別途、入学時アンケートや国家資格の試験結果アンケート、就活アンケートなども併せて実施しており、各受講学生の意識調査や結果などの授業内容以外についても極力把握できるように努力をしており、また、対象学生に対しては、個別にサポートしている。</p>
学生の学修成果	<p>学生の学修成果は、国家試験結果として表れるため、卒業後の建築士試験結果についても追跡調査しており、その結果について真摯に受け止めている。現在は、2020年度から担当しているが、2021年度以降は、北海道内の大学では二級建築士の合格率トップ（日建学院札幌校調べ）となっており、かつ、二級建築施工管理技士補試験でも高い合格実績（2023年度合格率69.2%、全国合格率37.7%）を誇っている。</p> <p>今後、一級建築士についても合格成果を出せるように努力していきたいと考えている。</p>

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

今後の目標は、在学中に二級建築士、一級建築施工管理技士補、宅地建物取引士の合格者を拡大させることと、卒業後に実施される一級建築士試験では、毎年、試験主催者にて、10名以上の合格者を輩出した大学についてのリストが公表されるため、その大学リストに継続的にランクインできることを目標としたい。

よって、大学を卒業したら終了というような教育姿勢ではなく、卒業生の動向についても注視していきたいと考えている。

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>

以上

令和 5（2023）年度

星槎道都大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学部・学科	美術学部 建築学科	職位・氏名	専任講師 向井 正伸
---------	--------------	-------	------------

1. 教育の責任（何をおこなっているのか？ 担当科目は？）

①教育の責任

私が担当している主要な科目とその内容は以下の通りです。

■設計演習科目（基本製図、建築設計製図、建築設計演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）

設計演習科目では図面の読み書きから、設計コンセプトの立案、設計手法までを総合的に教えます。設計では学生たちのアイデアを形にする手助けをしつつ、実務での経験をもとにした実践的なアドバイスを提供し、さらにそのコンセプトが具現化されているかを評価ディスカッションしブラッシュアップのヒントを学生に示します。学生たちが独自の設計思考を持ち、より良い空間やまちを提案する能力を育てることを目指しています。

■ CAD 演習Ⅱ：BIM 教育

この科目では、建築設計のデジタル化が進む中で必要不可欠となる BIM（Building Information Modeling）の基本から応用までを指導します。学生たちに現代の建築業界で必須となる BIM のツールと思考法を身につけさせることを目的としています。具体的なソフトウェアの操作の習得を通して、BIM システムを理解します。

■ 専門ゼミ（基礎ゼミⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、建築研究）

専門ゼミでは、学生と共に議論を深めながら、現代の社会的課題や空間デザインによる心地よい暮らしを共有し、それを実現するための空間的アイデアを構想しデザイン・表現・提案までができるスキルを学びます。それらを、机上だけではなく、できる限り実際のまちに出て、オーナーや住民との対話、フィールドワークやワークショップを通じてしか得られない学びや達成感を理解してもらえよう活動しています。

②担当科目

担当科目名	学科・専攻	必修・選択・自由科目の別	配当年次	受講者数
基礎ゼミⅠA	建築学科	必修	1	20
基礎ゼミⅠB	建築学科	必修	1	20
基礎ゼミⅡA	建築学科	必修	2	20
基礎ゼミⅡB	建築学科	必修	2	20
基本製図	建築学科	必修	1	60
建築設計製図	建築学科	必修	1	60
建築設計演習Ⅰ	建築学科	必修	2	50
建築設計演習Ⅲ	建築学科	選択	3	40
建築設計演習Ⅳ	建築学科	選択	3	30
建築設計演習Ⅴ	建築学科	専攻必修	4	20
建築設計演習Ⅵ	建築学科	専攻必修	4	20
二級建築士演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	建築学科	専攻必修	4	20
CAD 演習Ⅱ	建築学科	選択	2	50

アクションプログラムⅠ	建築学科	選択	1	20
アクションプログラムⅡ	建築学科	選択	1	20
建築研究Ⅰ・Ⅱ	建築学科	必修	3	8
建築研究Ⅲ・Ⅳ	建築学科	必修	4	8
卒業研究	建築学科	必修	4	8

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているのか？育てたい学生像など？）

建学の精神	社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。
教育の理念	必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる。
学科の教育理念・目標	人びとの生活から社会活動の基盤となる建築・都市環境に関わる専門知識を有し、これらを構築する豊かな創造力を持ち、社会に貢献する建築技術者を育成する。また、工業（建築）分野の教職において活躍できる人材を育成する。
個人の教育理念・目標	<p>●個人の教育理念</p> <p>生活と社会活動の器である建築・都市は、人々の営みや心身の拠り所であり、社会の歴史や文化と大きく結びついています。私は学生たちに、この建築・都市環境が持つ深い意味や役割を理解し、新たな形で創造する能力を持たせることを目指しています。</p> <p>●個人の教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間力の理解 ～ 建築や都市が社会や人々の生活に果たす役割を深く理解する能力を育てる。 ・創造力の育成 ～ 実務の経験を生かして、実際の課題に対応する創造的な思考や技術を培う。 ・社会への貢献 ～ 学んだ知識や技術を実際の現場で活かし、社会に必要とされる建築や都市空間を提供する能力を持つデザイナーを育成する。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法は？）

授業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題を踏まえた設計授業 人口減少や気候変動、格差拡大などさまざまな課題が山積する現代において、地方創生やウェルビーイング、心地よい働き方や暮らし方など、持続可能な社会づくりに寄与する空間デザインがより求められています。そのような、社会課題を乗り越えるような空間やまちづくりをターゲットとした設計課題を学生と共に取り組みます。 ・実務経験を活かした授業 さまざまな用途の建築設計を行ってきた実務経験を活かし、まちに関わる実際のプロジェクトを学生と取り組み、その課題や解決策を学生と共に検討し、実施プロジェクトの困難や達成感、感動を体験してもらいます。
アクティブラーニングについての取組	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 学生を小グループに分け、グループでリサーチや検討、共同での表現活動 実際の建築プロジェクトに基づいたケーススタディや課題を解決させます。 ・フィールドワーク 実際の建築現場や都市部を訪問し、その場での観察や調査を通じて、学びの深化を図ります。 ・ピアレビュー 学生同士での作品や考えを共有し、互いにフィードバックを行うことで、批評能力や他者の視点を理解する能力を高めます。

ICT の教育への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ BIM ソフトウェアの利用 BIM 関連の最新のソフトウェアを取り入れ、デジタルでの建築設計の方法を学びます。 ・ オンラインコラボレーション オンラインプラットフォームを利用して、遠隔地の専門家や学生とのコラボレーションを促進します。 ・ VR/AR 技術 実際の建築現場やデザインを VR/AR 技術を利用して体験することで、より深い理解を促進します。
その他の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務者の招聘 現役の建築家等を招き、第一線で考えられている思考や経験を学生と共有します。 ・ 実践的プロジェクト 地域社会と連携し、実際の建築プロジェクトを学生と共に進めることで、実務経験を早い段階から積む機会を提供します。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか？）

授業改善アンケートの結果	<p>主な授業として、2023年度のCAD演習Ⅱ（回答率88%）ではとても満足できた54%、十分満足できた30%、満足できた14%、合計97%の学生が満足できたと回答がありました。自由記述欄では「初めて扱うソフトだったが、説明が丁寧で、学生の進捗状況に合わせて進めていたの程度使いこなせるようになった。」「使い方をしっかり教えつつ、生徒の自立を目的とし、課題も出す。といった点において有意義な授業展開がなされていた。」という記載がありました。また、建築設計演習Ⅰではとても満足できた51%、十分満足できた27%、満足できた22%、合計100%の学生が満足できたと回答があり、自由記述欄では「説明や資料の内容が丁寧で分かりやすかった。」「一年の授業とは異なり、自立を目的とした授業展開の中で、先生方の力も借りつつ、自分の頭の中で組み立てた案を現実にしたことが嬉しく、やりがいを感じた。」という回答がありました。いずれも授業を通して成長を感じられた結果と考えています。</p>
学生の学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計能力においては、構想力、設計力、表現力の3要素が非常に重要であるが、そのいずれも、年々向上していると感じます。

5. 今後の目標（以上を踏まえて、今後どうするのか？）

設計力向上は感じるものの、実際に設計事務所に就職するためには、他大学の学生との競争にも勝ることが必要となります。さらに学外コンペに応募・入賞する学生もまだまだ少ないため、さらなるモチベーションアップと能力向上のために、サポートが必要と考えています。また、授業による指導に加え、先輩作品やスキル伝承も重要で、展示会や作品集、講評会での他学年との交流も有効と考えています。また、講評会では、ゲストクリティックとして学外の建築家を招聘し、多角的な議論を行うことが、学生のモチベーションアップにつながると考えています。

6. 添付資料（根拠資料）

シラバス

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/syllabus/>

授業改善アンケート

<https://www.seisadohto.ac.jp/students/information1/questionnaire/zyugyoukaizenanketo-kako/>